

恩師 並木昭義名誉教授



苫小牧市医師会
みらい整形ペインクリニック

五十嵐 元彦

苫小牧市沼ノ端地区で整形ペインクリニックを開業13年目になります。

祖父の心臓突然死が悔しく、蘇生、救命ができる人になりたくて医師を目指しました。

現在、蘇生とは畑違いのペインクリニックで診療をできているのは、恩師、札幌医大麻酔科学講座並木昭義名誉教授のお蔭であると本当に感謝しております。卒業を控えた秋、麻酔科の入局説明会に行き、並木教授が明るく、元気で良さそうな先生に見えました。

今ならもっと慎重に入局先を考えても、と思いますが、その時は「何か良さそうな先生、教授」というインスピレーションを受け、蘇生ができるようになってから救急部に移れば良いと考え麻酔科に入局しました。

3年間の麻酔科研修を受けるうちに麻酔のおもしろさにはまり、大学院に入れていただきました。大学院4年目は、手術室の麻酔管理を離れ、並木教授に付きっきりでペインクリニック外来、病棟管理をしながらデータ整理、論文の指導を受けるシステムでした。その当時は手術室での麻酔が好きでしたのがっかりしていました。しかし、並木教授のペインクリニック外来、病棟での患者さんへの真摯な診療態度、優しさ、人間味のある診療態度を身近で見せていただき、麻酔科はこういう仕事もできるのかと新鮮な感動がありました。他の臨床科では当たり前かもしれませんが、外来で患者さんと話をしながら治療に当たる医師の姿勢を教育していただきました。こちらが熱心に治療にあたれば、患者さんもそれに応えてくれて症状が改善する。喜ばれ、信頼される患者-医師関係、ペインクリニックも良いなと思いつつ、大学院卒業。

関連病院では、麻酔、救急、集中治療を主、ペインクリニックを従としていました。その後、同門の川端博志先輩から誘いがあり大学院時代の並木教授から教えていただいたことを生かせるかな、患者さんの外来診療も良かったなと現在の整形ペインクリニック開業につながりました。

医学部教授になる方は業績だけでなく、やはり人間性に優れた人物が選ばれるようで、並木教授は大人物です。その恩師から折に触れ、処世訓、人生訓を教えていただきました。

「オイ悪魔」：おこるな、いばるな、あせるな、くさるな、そして負けるな。怒りたくなる時も並木教

授から言われたことを思い出して「オイ悪魔」と唱えています。

他にも教授として、人生の先輩として後輩医局員が医師人生、ヒトとしての道を誤らないよう多くのアドバイスをいただきました。

「人間万事塞翁が馬」：もしかしたら大学院時代に麻酔管理を離れて教授のそばでペインクリニックに回ったことも？とも思いながらこれは、この年になっても、まだ十分に理解しきれていません。

そして、一番は自分の業績を誇らない態度、人格。今では当たり前のようにきれいで威容を誇っている小樽市立病院の統合、移転新築は難事業で、噂では並木教授のご尽力がなければ無理だったと聞いています。しかし、難事業の大変さを誇ることもなく、その謙虚な姿勢、態度を見せていただいて感心しております。

尊敬する並木教授からある日「五十嵐、どういう医者が一番いい医者だと思う？」と聞かれました。答に窮していました。それは「大学教授でも、大病院の院長でもなく、その地域で一所懸命患者さんの治療に当たる医者が一番良い医者なのだよ、分かるかな、五十嵐」と優しく教えていただきました。「そうか！」と。現在の開業、診療で迷った時、自信を失いかけた時もその恩師の温かい言葉を思い出して元気を出しております。

治療に当たっている患者さんに並木教授からの教えの少しでもお返ししながら、患者さんの苦痛が取れるように優しく治療に当たっていこうと思っております。

毎日、患者さん、よき先輩たち、看護師、職員に恵まれていることを有り難く、感謝して診療にあたっております。

並木教授に巡り合えて、ご指導いただけた幸運と、その一部でもお手本にさせていただいていることに感謝しております。

入局時のインスピレーション通りの私の医師人生の幸福な結末です。